

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
越谷保育専門学校	昭和52年2月28日	山崎美美夫	〒343-0023 埼玉県越谷市東越谷3-10-2 (電話) 048-965-4111			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 ワタナベ学園	昭和44年2月7日	山崎美美夫	〒342-0041 埼玉県吉川市保1-21-7 (電話) 048-981-0611			
目 的	学校教育法(昭和22年法律第26号)第8条に規定する幼稚園教諭及び児童福祉法施行令(昭和23年政令第74号)第13条第1項第1号に規定する保育士を養成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉	専門課程	第一部 幼稚園教諭保育士養成学科	2年(昼)	2,055時間 (84単位)	平成12年文部科学大臣告示第22号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	555時間 (37単位)	1,440時間 (52単位)	0時間 (0単位)	390時間 (10単位)	30時間 (1単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200人	190人	9人	33人	42人		
学期制度	■前期：4月1日～9月31日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有) ■成績評価の基準・方法について ・学則に定める授業科目を履修し試験に合格した者に所定の単位を与える。 ・学習の評価はS、A、B、C、Dの5段階に分け、C以上を合格とする。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月20日～8月31日 ■冬 季：12月20日～1月7日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	■卒業条件： 2年以上在学し、教養科目の9単位以上及び専門教育科目の75単位以上を修得した上で、課程修了の認定を受ける。 ■進級条件：特になし	

生徒指導	■クラス担任制（有） ■長期欠席者への指導等の対応 担任が定期的に個別面談を行う。毎日の欠席状況を把握し、欠席の多くなっている生徒には教員間で連絡を取り合い、担任から生徒及び保護者への電話連絡等を密に行う。状況に応じては保護者にも来校を促し、カウンセラーや担当者が面談を行う。	課外活動	■課外活動の種類： ボランティア活動等 ■サークル活動（有） 美術、軽音楽、るり子（人形劇）、園芸、卓球
就職等の状況	■主な就職先、業界等： 保育園（所）、幼稚園、障害児施設 ■就職率^{※1}： 100% ■卒業生に占める就職者の割合^{※2} 100% ■その他（任意）： 大学進学1名 （平成26年度卒業者に関する平成27年4月時点の情報）	主な資格・検定	・幼稚園教諭二種免許状 ・保育士資格 ・おもちゃインストラクター ・専門士
中途退学の現状	■中途退学者 25名 （除籍者8名を含む） ■中退率 13.1% 平成26年4月1日在学者 191名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者 166名（平成27年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 ・進路変更 ・学業不振 ・教育資金不足 ■中退防止のための取組 担任が定期的に個別面談を行うとともに、心理カウンセラーも相談に応じている。担任は毎日の欠席状況を把握し、欠席の多くなっている生徒には教員間で連絡を取り合い、担任から生徒及び保護者への電話連絡等を密に行う。状況に応じては保護者にも来校を促し、カウンセラー等が面談を行う。		
ホームページ	URL:http://www.koshigaya-hoiku.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成		
(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)		
今日の就学前教育や保育事業に対する保護者や社会の要求は多様であり、平成27年4月からは子ども・子育て支援新制度が開始した。このため、保育者養成においては、企業等の要請に応じるためにも、常なる教育課程の見直しが求められている。そこで、企業等と連携し、本校の専門分野に関する知識・技術・技能等を把握・分析することから、社会や企業等で信頼され活躍できる保育者養成を目指した教育課程の編成や授業の改善・工夫を行う必要がある。上記の目的達成のために、企業等の役職員が参画する教育課程編成委員会を設置する。		
(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)		
企業等の委員		平成27年6月15日現在
氏名	所属	
池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事	
石田 高幸	学校法人石田学園理事長、社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園園長	
植竹 清文	学校法人植竹学園認定こども園わかばの森園長	
時任 厚尋	学校法人川上学園認定こども園バンビーノせいしょう教頭、本校卒業生	
山田 陽子	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授	
学校側委員		
氏名	所属	
山崎美美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校校長	
松本 昌治	越谷保育専門学校副校長	
会田 秀樹	同 学科長	
東海林 孝	同 教務部学科主任	
渋谷るり子	同 教務部主任	
須賀 成則	同 事務長	
菊地 秀典	同 事務長代理	
(開催日時)		
第1回 平成27年6月15日 11:20~12:20		
第2回 平成27年11月9日(予定)		
2. 主な実習・演習等		
(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)		
企業等における実習・演習等では、企業側の実践的かつ専門的な知識や技能等を備えた指導者の下、学生が学校で学んだ知識や技術等を実践的に体験することから、子ども理解、保育者の職務の理解、自己理解、保育者を目指す意識の定着、専門的かつ実践的な知識・技術等の修得、実習・演習後の学習目標の設定等に取り組み、企業等と学校との連携による実践的かつ専門的な職業教育を推進する機会とする。		
科目名	科目概要	連携企業等
教育実習指導	教育実習に参加する前の事前指導の一環として、15回の授業のうち、6回の授業で校外実習を行う。(「実習体験」と呼ぶ。)保育の実際を観察し、幼児と積極的にかかわることから、幼児理解や観察の視点の持ち方、記録の取り方など、本実習に向けて必要な知識や技術、心構え等を学ぶ。	本校を経営する法人の系列下にある附属幼稚園で実施。本校とは敷地を別にしている。 平成25年度は6園で実施。 平成26年度も6園で実施。

教育実習Ⅰ	幼稚園における実際の保育を体験することから、幼稚園の役割を理解するとともに、幼稚園教諭が行う保育や各種活動を補助的、部分的に行うことで職務内容を理解する。また、「環境を通して行う」保育や「遊びを通して行う」就学前児童の学習援助等の実際についても学ぶ。	平成25年度は81園で実施。 平成26年度は67園で実施。
教育実習Ⅱ	幼稚園における教育実習Ⅰの体験を踏まえ、幼児の理解、幼児個々への援助や全体管理、幼稚園教諭の具体的な業務と役割の理解、責任実習の指導計画の立案と実施、「環境を通して行う」保育や「遊びを通して行う」就学前児童の学習援助等の実践から、実践力と専門性を養う。	平成25年度は69園で実施。 平成26年度は73園で実施。
保育実習ⅠA	保育所における実際の保育を体験することから、保育所の役割を理解し、保育士の補助や部分実習等を通して保育士のさまざまな職務に積極的に取り組み、授業で学んだ知識や技術等を保育環境で実践する。また、各年齢の子ども達の成長の様子や個性に気付きながら積極的にかかわる。	平成25年度は85施設で実施。 平成26年度は58施設で実施。
保育実習ⅠB	保育所以外の居住型の保育や福祉の場で子どもや入居者とかかわることにより、授業で学んだ保育・福祉の知識、理論及び技術等を体験的に習得する。保育士が行う子どもや入居者への対応や業務内容を観察し、現場で実践して今後の学習に生かす。	平成25年度は34施設で実施。 平成26年度は31施設で実施。
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰにおける保育所での実習の経験を踏まえ、部分実習や責任実習を通して積極的に保育の場に参加し、子どもへの援助技術や知識を体験的に習得するとともに、保護者支援についても学びを深める。	平成25年度は78施設で実施。 平成26年度は82施設で実施。

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教育目標の達成に向け、企業等と連携の下、教職員に必要な専攻分野に関する知識・技術等並びに、指導力の修得・向上を目的とした研修等の推進を図る。教職員全体を対象とした研修会は、年2回開催する。さらに、教職員は、最新の実務や知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うため、企業等が主催する校外の研修会や学会等に参加し、職務遂行上必要な資質向上に努める。研修等の内容等については、「教職員研修・研究推進委員会」で協議し、校長に答申する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

企業等の委員

平成27年6月15日現在

名 前	所 属
池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長、社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園園長
植竹 清文	学校法人植竹学園認定こども園わかばの森園長
鶴見 秀海	埼玉県立越谷東高等学校校長
時任 厚尋	学校法人川上学園認定こども園バンビーノせいしょう教頭、本校卒業生
中島新太郎	元埼玉県吉川市立北谷小学校校長、元吉川公民館館長
山田 陽子	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授

学校側事務局

氏 名	所 属
山崎美美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校校長
松本 昌治	越谷保育専門学校副校長
会田 秀樹	同 学科長
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部主任
須賀 成則	同 事務長
菊地 秀典	同 事務長代理

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.koshigaya-hoiku.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.koshigaya-hoiku.ac.jp>

授業科目等の概要										
(教育・社会福祉関係専門課程 第一部幼稚園教諭保育士養成学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
		○	倫理学	私たちは日常生活の多くの場面で様々な判断をし、自らのとる行動を決めています。その判断の根拠となるものが倫理です。本講では、特に日本の各時代における倫理に対する考え方、「倫理思想」を紹介します。有名な説話や、庶民に広く親しまれた人物の著作を時代順に読んでいく事で、日本人の倫理思想がどのように展開してきたのかを学ぶ予定です。実際に作品を読む他、同時代に関する視聴覚資料を見る事によって、理解の向上を図ります。	2後	30	2	○		
		○	文学	児童文学の作品を通して、作家の子どもに対する「思い」と彼らの背景を紹介し、自分たちの人生観、教育観と照らし合わせていく。ページをめくる際の紙のこすれる音、読み手の息使い、立体的・身体的な関わりなどの絵本の読み聞かせ活動の意義を再確認し、人と人とのやりとりのなかで言葉を味わうことの価値を問題とする。	2後	30	2	○		
○			英語コミュニケーション	本講では、1. 文法・単語に関する基礎的な知識を習得すること、2. 英語でスピーチを行うこと、3. 幼児向けの文学を英語で読み聞かせられるようになるための知識を習得する。	1後	30	2		○	
○			日本国憲法	日本国憲法は日本国の基本的理念である。幼児の教育をになうものがその内容を理解していることは必須の要件である。この授業では日本国憲法の内容を平易に事例を上げながら解説していく。	1前	30	2	○		
		○	社会学	担当している園児やその御家族から持ち込まれる“相談”には、必ず社会的な背景がある。現代社会を生き抜く人々の営みは、すべて社会と結びついており、その“相談”はその社会の中でおりなされているものである。ゆえに、個人、集団、社会において、何が起きているのか、その連関で地域社会をイメージできる“社会観”を身につける。	2後	30	2	○		

○		生き物	身近な動植物を観察し、分類学上の特徴等を学び理解を深めるとともに、環境に適応して進化した生命の神秘を学習する。また演習を通して保育現場での子どもたちとの遊び方を体験実習し、より興味を持たせる方法を思考させる。	1前	30	1		○	
○		情報機器の操作	幼稚園や保育所における職員間の確実な情報伝達、効率の良い文書管理、保護者への適切な広報活動を行うために必要な、情報機器の適切な操作方法を習得する。	1前	30	2		○	
○		体育講義	教育者（保育者）として必要な体育（運動生理学・運動心理学・運動栄養学・体育史）の教養を深め、自己の健康管理（維持増進）ができるようにする。	1前	15	1	○		
○		体育実技	教育者（保育者）にとって健康を維持するために必要な体力の保持増進や、各競技が社会性・協調性を育むことをねらいとして行う。	2前	30	1			○
○		日本語の表現法 （児童文学を用いて）	親しみやすい児童文学を通して、母語である日本語の重要性を再認識する機会とする。時と場合にふさわしい日本語を正しく使うという側面と、相手を気遣い、気持ちのこもった日本語を使うという双方の側面を意識し、信頼される保育者を目指す。	1前	30	2		○	
	○	子どもの科学	身近にある器具を用いて、やさしく安全な科学実験を実習し、合わせて科学の基礎知識を学ぶ。	2後	30	1		○	
○		音楽 I A ピアノ基礎	幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていきます。音楽に親しみ、歌を歌い、生活の中で音楽に親しむ態度を育てることは重要です。この授業では、ピアノの実技を習得しながら、保育者自らの音楽性を磨き、基本的な弾き語りとピアノの実技を学びます。初心者は読譜に必要な基本的な楽典を再確認しながら、経験者は更なる演奏テクニックの上達を目指しながら、課題を習得していきます。	1前	30	1		○	
○		音楽 I B ピアノ基礎	幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていきます。音楽に親しみ、歌を歌い、生活の中で音楽に親しむ態度を育てることは重要です。この授業では、前期の音楽 I A ピアノ基礎の引き続き、更にピアノの実技習得を目指します。また保育者自らの音楽性を磨き、ピアノ弾き語りを使用した部分実習を想定し、指導法の実践を学びます。	1後	30	1		○	
	○	音楽 I C 弾き語り演習	幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていく。音楽に親しみ、歌を歌い楽しみ、生活の中で音楽に親しむ態度を育てる事は重要である。この授業では、ピアノの技術の更なる訓練と弾き歌いを経験しながら、音楽にかかわる活動の工夫や、音楽に親しみ楽しめる環境を考え、発表を通して実践力を養っていく。また、幼児たちがさまざまな場面で心を動かしている出来事に共感できるよう、授業内で色々な曲に触れながら、自らの感性を磨いてい	2前	30	1		○	

				く。						
	○		音楽ⅠD弾き語り演習	幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていく。音楽に親しみ、歌を歌い楽しみ、生活の中で音楽に親しむ態度を育てる事は重要である。この授業では、前期の学びの上に更にピアノの技術の更なる訓練と弾き歌いを経験しながら、音楽にかかわる活動の工夫や、歌に親しみ楽しめる環境を考え、発表を通して実践力を養っていく。また、幼児たちがさまざまな場面で心を動かしている出来事に共感できるよう、授業内で色々な曲に触れながら、自らの感性を磨いていく。責任実習も終わり、就職を意識した選曲や取り組みができるような課題曲になっているので、個人の目的や目標に応じて取り組んでほしい。	2後	30	1			○
	○		音楽Ⅱ理論と音楽あそび	幼児は、生活やあそびの中でのかかわりから、そこに限りない不思議さや面白さ、美しいものや心を動かす出来事に触れイメージを豊かにしていく。音や音楽もそのかかわりの一つとして重要な役割がある。幼児は一般に音楽に関わる活動が好きで、歌に合わせて体を揺らし歌い、楽器で遊びその楽しさを十分味わう事が、生活の中で音楽に親しむ態度を育てていくことに繋がる。授業では、楽典の基礎知識を復習しながら、音や楽器（打楽器）を使ったさまざまな遊びを取り上げる。活動を通して保育者の感性を磨き、こどもたちが音楽に親しみ楽しめるような環境を工夫していくための力を養成する事を目的とする。また実際の活動例を実践しながら幼稚園教育要領や保育所保育指針の解説を読み解き、指導法を身につける。	1前	30	1			○
	○		音楽Ⅱ器楽とオペレッタ	器楽合奏、合唱、オペレッタの実践を通して、保育現場での音楽指導に必要な知識・技術を学ぶことを目的とする。幼児が想像力を広げ楽しく音楽表現できるように、保育者の立場でどのような支援すればよいか考え、行動する力を養う。	2前	30	1			○
	○		幼児の音楽	子どもは日常の中の様々な刺激を受けて発達をしていきます。音楽もその一つであり幼児期である4歳から6歳が、聴覚の発達のピークであるといわれています。ゆえに保育者は子どもにとって心地よい音楽、楽しめる音楽との出会いを大切にする必要があります。この授業では音楽鑑賞を通し、保育者の感性を養うとともに、ハンドベル（ミュージックベル）の活動や奏法を学んでいく。また合奏の編曲や効果音作曲、BGMなど自らの就職先や目標に合った課題を各自設定し、音楽活動の実施に取り組む。	2後	30	1			○

○		図画工作ⅠA	いろいろな表現を通じて造形素材の特性を理解したり、“ザリガニ”をモチーフに劇発表までの造形活動を経験することで、子どもたちが豊かに表現活動ができるように環境を整えたり演出することを学ぶ。また、自らも表現することの喜びを知り、感性を豊かに養う。	1前	30	1		○	
○		図画工作ⅠB	保育現場で活躍する「段ボール」「紙粘土」を主な素材にして、共同制作や劇発表など体を大きく使った遊びを展開しながら、子どもたちと一緒に豊かな造形表現を楽しむための援助の方法を学ぶ。そして自らも表現することの喜びを知り、感性を豊かに養う。	1後	30	1		○	
	○	図画工作Ⅱ	造形活動は、子どもをいきいきさせ、生活を豊かにします。保育の現場では、子ども主導の造形活動を支える一方、あらたな表現媒体や表現方法に出会う保育者主導の設定型の造形活動を「造形教材」として提供することは子どもの世界をひろげます。 この授業では、9～3月の園生活で展開されるあそびや活動の中から題材をみつけ、いろいろな造形教材を楽しく試行し、現場で活動を展開できる実践力を養う。	2後	30	1		○	
○		幼児の運動A	幼児期の発育・発達の特徴であるといわれる感覚運動を養うために器械体操を用いる。その器械体操を子供たちが継続して行えるような指導方法と安全に行うことができるような補助方法を技術発表会などの模擬授業を通して学ぶ。また、簡単な道具や少しのスペースで遊べるゲームを知る。	1後	30	1		○	
	○	幼児の運動B	幼児の運動法全般として、種目ごとの導入、遊び方、補助の仕方、運動会競技の演技指導法などを授業に取り入れる。 幼児期の発育・発達の特徴であるといわれる感覚運動を養うために器械体操を用いる。その器械体操を子どもたちが継続して行えるような指導方法と安全に行うことができるような補助方法を技術発表会などの模擬授業を通して学ぶ。また、簡単な道具や少しのスペースで遊べるゲームを知る。	2前	30	1		○	
○		子どもの保健ⅠA	保育者として子どもに携わる上で必要とされる健康に関する知識のうち、子どもの体の生理や発育発達の過程、子どもの心の発達や子どもに多い事故の実態とその防止策などを学び、子どもの成長を理解することを目的とする。	1前	30	2	○		
○		子どもの保健ⅠB	保育者として子どもに携わる上で必要とされる健康に関する知識のうち、子どもに多い疾病とその対応、感染症の予防、子どもを取り巻く健康問題などを学び、集団保育における健康と安全管理に必要な知識を身につけることを目的とする。	1後	30	2	○		

○		子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅰで学んだ知識を基に保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、事故防止対策等についての具体的な対応法について学びます。	2前	30	1		○	
○		子どもの食と栄養A	小児期の適切な食生活は、心身の健全な成長、発達のみならず、生涯にわたる健康の基盤となる。生活習慣形成を築く原点ともいえる。それを踏まえ「食を営む力」の基礎を養う観点から食生活全般の基本知識・技術・支援方法を学ぶ。Aでは乳児期・幼児前期を中心に授乳、離乳食の調理実習を通し、具体的な技術・支援方法を身につける。	2前	30	1		○	
○		子どもの食と栄養B	小児期の適切な食生活は、心身の健全な成長、発達のみならず、生涯にわたる健康の基盤となる。生活習慣形成を築く原点ともいえる。BではAで学んだ知識を踏まえ、幼児期からの食育の意義と具体的な実践方法を学ぶ。また、調理実習を通し、発達段階に適した食事指導、支援方法を身につける。	2後	30	1		○	
○		児童家庭福祉	児童（子ども）家庭福祉の課題とそれが生起する社会構造を理解する。子ども家庭福祉の歴史を概観し、現代家庭福祉の意義と成り立ちについて理解する。保育との関連性、子どもの人権及びその能動的権利について、受動的権利と合わせて理解する。実施体制と対策としての事業について具体的に理解する。支援方法「について理解する。児童福祉法と関連法について理解する。	1後	30	2	○		
○		社会福祉	社会福祉とは何か、保育士が現場で活用すべき発想を学ぶ。社会福祉とは日本国憲法に基づく実践活動であるため、その活動内容を性格づける施策や制度、法規定を踏まえて”保育”ができるように専門知識への理解を深める。	1前	30	2	○		
○		相談援助	「社会福祉」での学習を踏まえ、実際に園児とご家族にどのように対応していけばよいかについて、これまでの研究成果と実践効果を手がかりに、理解を深めていく。ひとつとして同じことはなく、ひとりとして同じ人間がいない現実に、専門職は日々翻弄されがちとなる。より多くの専門性を発揮するために欠かせない理論と原則を中心にアプローチをイメージできるようにする。	2前	30	1		○	
○		教職概論	「教育は人なり」と言われる。他者の教育を任された教師は重大な責任を背負い、その職責を全力で遂行しなければならない。そのために、教育意識の高揚や資質能力の向上が常に求められている。本授業では期待される教師の在り方、求められる資質能力、職務の実際、職務に関する教育法規などを学び、教育者への道を目指す。	2後	30	2	○		
○		教育原理	「教育を受けていた者から教育を行う者へ」。教育者になるための第一歩は、「教育原理」の学習から始まる。本授業では教育の意義や目的、先人の教育観、教育理論や教育制度の歴史、教育指導	1前	30	2	○		

			の理論と実際、現代の教育と諸課題などを学ぶ。						
○		発達心理学	本講では 1. 発達に関する既存の学説を理解すること、2. 人が生涯に亘って能力を獲得し、喪失していく過程を概観すること、3. 乳幼児期の発達の特徴を踏まえた発達支援の方法に関して、自らの意見を述べられることを目標とする。また、心理指標に触れ、アンケート調査の方法論と解釈の仕方、および限界を理解し、実生活に応用出来るようになることを目指す。	1 前	30	2	○		
○		教育心理学	この授業では、乳幼児期の保育、教育に関係する心理学からの知見を概説する。さらに、子どもたちが生き生きと楽しく『知る』または『学ぶ』ための教育的なはたらきかけについて学習者と共に考察していく。	2 後	30	1		○	
○		幼児教育経営学	幼児教育施設は今、複雑で多様化してきている。幼児教育に関連する法規や施策も近年、大きく変わってきている。こうした中でも保育者の役割は変わらず、子どもたちと生活を共にし、その成長・発達を支え、生活をつくり、保育をすることである。幼児教育経営学では、幼児教育施設の機能、法規や制度（施策）をふまえた上で保育者の仕事（職務）や役割について講義していく。保育における安全管理、学級経営に必要な基本事項、特別支援における療育機関との連携、小学校との連携についても保育実践例を通して、具体的に学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		保育・教育課程論	複雑で多様な保育現場の姿から、大切なことは、何かを共に考え学んでゆく姿を基本として、保育の厳しさ、保育者の役割、保育のおもしろさ、楽しさ、魅力あふれる保育者像を求めつつ、保育者自身の役割を明確に認識する。	2 前	30	2	○		
○		保育内容総論	本授業では、保育者をめざす各自が、これからの保育現場の中で自ら考え、自ら実践していくために必要な力を培うことを基本とする。後期授業として、今まで学んできた理論及び実習体験、また現場での事例等を通して、保育内容について総合的に理解できるようにする。具体的には各領域の内容と、これらが総合的に展開される“子どもの生活と遊び、その指導のあり方、環境構成など”である。これらに関わる自分の考え方や姿勢を見つめる機会とする。そして、子どもに向かう意識・態度を身につけていく。	2 後	30	1		○	
○		保育内容健康	子どもたちが、自ら健康で安全な生活を送るために必要な心情・意欲・態度について学ぶ。また、生きる力を養う基礎が、遊びを通して行われることを学ぶ。	1 後	30	1		○	
○		保育内容人間関係	幼稚園教育要領および保育所保育指針等の文献および資料により、幼児教育における「人間関係」を育む保育・教育の内容や乳幼児期の発達について学び、さらに、事例を通して幼児理解をしなが	1 後	30	1		○	

			ら、乳幼児期の人とかかわる力を培うための保育の在り方を学ぶ。						
○		保育内容環境	保育内容「環境」についての理念を学びつつ、乳幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の特徴をふまえ、保育における環境との豊かなかかわりを育むための指導方法を実践的に学んでいく。	1 前	30	1			○
○		保育内容言葉	言葉の指導を行なう際の態度、考え方、留意点を問題として授業を進める。特に他の領域との密接な関わり、子どもが自己表現の手段として、いかに言葉を獲得し、またそのことが情緒を安定させる上でいかに重要であるのかという点に着目する。	1 後	30	1			○
○		保育内容表現（音楽）	次の2本の柱を中心に、音楽表現の喜びを味わい、子どもの音楽表現に共感できる感性と、保育者として自ら表現する姿勢を身に付ける。○子どもの遊び歌・唱え歌・わらべ歌・季節の歌・身体表現・創作を通して、子どもと音楽を楽しむ為の「音楽の引出し」を増やし、基礎的な援助（選曲、提示の方法）を学ぶ。○幼児のリズミカルなことばや歌、動き、音などによる表現に気付き、支え、さらに豊かにする為に「子どもと音楽でコミュニケーションする保育者」を育成する。	1 後	30	1			○
○		保育内容表現（造形）	・子どもたちが感じた事や思ったこと、考えたことを体全体で表現できるように、まず私たち自身も一緒になってその表現を楽しみ、発展させる事が大事です。・この授業では、いろいろな素材を通して、様々な造形表現を楽しみながら体験し、子どもたち一人ひとりの生活を豊かに支える方法を学びます。	2 前	30	1			○
○		保育教材研究 （クラフト・ペーパーアート）	教材・教具についての知識を学びながら、実際に物を作り出していく過程の中で、子どもの生活環境に適した教材を、どのように工夫し取り入れていけるかを考える。実際に物を作り出していく過程の中で、年齢に適した教材の選択を学び、楽しく取り組ませ指導が出来るように、自分で考える力を学ぶ。	1 前	30	1			○
○		保育教材研究 （紙芝居・パネルシアター）	幼児たちへの様々な事への関心を高め、VTRやテレビなどの電子機器だけでなく、紙芝居やパネルシアターなどを使用して保育者が演じ、一つの媒体となり幼児と双方向に対話のできる保育教材を考える。その為に保育現場で役立つものとして教材を作成し、実践力をつけるために自作教材の演習を行う。	1 後	30	1			○
	○	保育教材研究 （折り紙・絵本）	幼児の情操を培い、言葉と心を育む、絵本のよみかかせについて、保育の視点で実践を通して研鑽する。 幼児が手を働かせて作る楽しさを体験する、折り紙の指導について研修する。	1 後	30	1			○

○	保育教材研究 (指人形・エプロン アター)	子どもの興味関心を引き出す保育技術で、子どもの心に伝える手段として、教材や教具の持つ意義を知ることが大切である。素材を生かしたり工夫したりして作り上げるなかで、子どもとの関わりを想像し、実際に取扱を実践しながら研究する。	2 後	30	1		○	
○	幼児教育の方法 及び技術	本科目では、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識を学んでいく。教育方法の基盤となる幼児教育思想や理論、発達観や指導計画の作成、幼児の生活・環境づくりについて解説する、また、遊びの指導、生活指導、個別指導、集団指導といったあらゆる場面を想定し、幼児の教育方法を映像や具体例を通して学んでいく。自由保育、一斉保育、混合保育、統合保育などの様々な保育形態についても解説し、幼児教育現場における教育・情報機器及び教材の活用法や活かし方について事例の紹介・体験をもとに学んでいく。	2 前	30	1		○	
○	幼児理解と教育 相談	保護者支援において、高い専門性が求められている。この授業では、相談援助の基本的な考え方と実際の援助方法、子どもの発達理解を解説する。保育現場で役立つ家庭支援や心の問題を含めた幅広い視点からのアセスメントを行い、より適切な支援目標を設定できるよう、実践的に学ぶ。	2 前	30	2		○	
○	保育・教職実践演 習	本授業では、これまでの授業や各種活動を通して学んだ学修成果が定着しているかを確認し、各自の課題の発見と実践力の向上を図る。授業内容としては具体的な教材や行事、保育・教育方法等を取り上げる。その際、効果的な学修成果を得る方法として、グループ討議と発表、ロールプレーイング、模擬指導、フィールドワーク及び事例研究等の授業形態を取り入れる。さらに学修成果を確認するため、履修カルテを作成し活用する。	2 後	60	2		○	
○	教育実習指導	実習は、子ども・保育者・保育内容等に直接かわり、実際を知り・学び、指導の実際を経験し、保育者としての自分のあり方を考えていく機会である。このことを認識し、実習への理解を深めつつ、具体的準備を進めていかなければならない。そのための授業と併行し6回の実習体験に取り組み、保育現場を体験する。そして、本実習に向け、各自の「実習課題」を明確にし、積極的・主体的に取り組めるようにしていく。	1 前	30	1		○	△
○	教育実習 I	教育実習では、実習の意義や目的を理解し、授業や体験実習の学び、さらに他教科で学んだ理論や知識を踏まえて、実習に取り組むことが大切である。実践の場で、子どもや保育者に接し、学べる機会を最大限いかせるよう、自覚と責任を持って臨むこと。自己の実習課題の明確化、日々の実習のねらいに沿って、記録と考察を重ねていくこと。自分なりの必要な準備をして、園の指導のもと、積極的かつ意欲的に取り組むこと。	1 9 月	60	2			○

○		教育実習Ⅱ	教育実習Ⅱでは、幼稚園の保育や保育者の職務について、理解が深められるように、今まで以上に積極的に取り組んでいくことが求められる。各自の課題を明確にし、子どもの実際の姿に向かい合い、学ぶ姿勢が大切である。実習の段階として責任実習に取り組むことで、保育の実践者としての責任と、自らの保育者としての適正や資質に気付き、今後に向けての意欲と努力の出発点とする。	2 9月	60	2			○
○		保育原理	保育は子どもからの出発であり、子どもたちは日常の体験を通して様々な力を獲得していく。その生活や遊びに関わっていく“大人・保育者”のあり方・関わり方が重要になってくる。そこで、子どもの発達していく姿を捉えながら、保育とは何か、保育の中での“関わり”の意味は、保育という営みの“養護と教育”とは、などについて、保育の実際の事例などを通して学んでいく。そして、保育の方法や形態、指導計画など、保育者としての基礎を身につける。	1後	30	2	○		
○		保育者論	保育者を目指す者は、子どもを取り巻く環境として関わっていく大人であり、子どもの発達と自己形成にとって重要な存在であることを、認識しなければならない。子どもは一人ひとり個性的であり、自らの力を発揮しながら、日々活力にあふれて生活している。そこに関わっていく保育者に求められているものは何か。そのため幼稚園教諭及び保育士の資格や資質に関して、その意義や役割を学び、保育者の専門性について考えていく。さらに、保護者や地域との連携や協働等を学び、保育者のあり方を追求していきたいと考えている。	2前	30	2	○		
○		社会的養護Ⅰ	①要支援の子どもと家庭の問題について具体的に理解する。②社会的養護支援のあり方を理解する。③施設の種別と概要を理解する。④居宅支援を理解する。⑤相談機関を理解する。⑥支援のプロセスを理解する。⑦アセスメントと個別支援計画を理解する。⑧家庭的養護を理解する。⑨チームアプローチとネットワークングについて理解する。⑩関係する諸科学について理解する。⑪今後の課題について理解する。	2前	30	2	○		
	○	社会的養護Ⅱ	①社会的養護問題が生起する要因を理解する。②支援の実際について理解する。③面接の目的と実際を理解し経験する。④発達の評価の方法について理解する。⑤支援技術について理解する。⑥対象児及び保護者の思い、ニーズについて理解する。	2後	30	2	○		

○		社会的養護内容	①社会的養護の現状とその背景について理解する。②要保護児童への支援について理解する。③支援を要する家庭のニーズと課題を理解する。④ソーシャルワークの視点と技術について理解する。⑤関係者・関係機関の連携について理解する。⑥社会的養護の今後の課題について理解する。 (＊演習科目であるため、事例を用いて検討する機会をできるだけ多く設定する。)	2 後	30	1		○
○		障害児保育 A	乳幼児を保育する場合、一人一人の子どもの発達や個性を理解し、それぞれの育ちを援助する事が大切である。気になる子や障害のある子も保育の考え方は基本的に同じだが、より専門的な知識や援助が必要となる。授業では、さまざまな障害の知識を理解した上で、対応方法、保護者支援、職員間・専門家との連携等を学び、対応できるようにする。	2 前	30	1		○
○		障害児保育 B	気になる子や障害のある子も保育の考え方は基本的に同じだが、より専門的な知識や援助が必要となる。授業では、さまざまな発達障害の知識を理解した上で、保育現場での対応方法、保護者支援、職員間・専門家との連携等を学び、実践力を身につける。	2 後	30	1		○
○		家庭支援論	保育者は、子どもの成長を支援するだけでなく、子どもの一番身近な存在である家庭を支える役割を担うことも期待されている。本授業では、現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解するとともに、子育て家庭の支援方法や関係機関との連携について学ぶ。	1 後	30	2	○	
○		乳児保育 A	乳児期の発達を支える保育士として、子どもを見る目、保育を見る目、親を見る目、自分を見る目の視点から、乳児を集団で保育することについて、個の育ちと集団との関わりについて学習する。また、近年増加している乳幼児虐待を防止するためのカウンセリングマインドを身につける。	1 後	30	1		○
○		乳児保育 B	乳児期の発達を支える保育士として、子どもを見る目、保育を見る目、親を見る目、自分を見る目の視点から、乳児を集団で保育することについて、個の育ちと集団との関わりについて学習する。また近年増加している乳幼児虐待を防止するためのカウンセリングマインドを身につける。	2 前	30	1		○
	○	臨床心理学	現代のストレス社会ではいろいろなこころの問題を抱える人が多い。どんなことでつらさを抱えているか理解し、関わりかたの基本を体験的に学ぶ。	2 後	30	1		○
○		保育相談支援	保育相談支援の意義と原則について理解し、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保育に関する専門的知識・技術を相談や助言、行動見本の提示に実践できるように学習する。	2 後	30	1		○

○		保育実習ⅠA	学校で学んだ知識や技術を現場で実践的に体験する中から子どもを理解し、保育することの重要性を認識する。積極的に保育の場に参加し、保育士の役割を学ぶ。	1 2月	90	2			○
○		保育実習ⅠB	保育所以外の児童福祉施設での保育や福祉の場で子どもや入所者とかかわることにより、授業で学んだ保育・福祉の知識、理論、技術を体験的に習得する。	1 3月	90	2			○
○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰにおいて、保育所での実習の経験をふまえて、保育士を目指すものとしてさらに自覚を深め、積極的に保育の場に参加し、子どもへの援助技術や知識を体験的に習得するとともに保護者支援についても学びを深める。	2 8月	90	2			○
○		保育実習指導ⅠA	保育実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習課題・心構えを明確にさせる。保育所の役割をしっかりと理解し、保育士の職務内容や保育、福祉のニーズを認識する。	1後	30	1			○
○		保育実習指導ⅠB	施設実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習課題・心構えを明確にさせる。施設の役割をしっかりと理解し、保育士の職務内容や福祉のニーズを認識する。	1後	30	1			○
○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰの学びと教科内容を関連させ、総合的に実践する応用能力を培う。保育士としての専門性と職業倫理、子どもの最善の利益の具体化について理解を深める。	2前	30	1			○
合計			72科目	2,415時間 (100単位)					